

苗場山-1

2015年7月31日（金）

出発から御花畠まで

恒例の8月連泊登山の今年は、新潟の苗場山（2145m）を一泊二日で企画し、参加者は14名にもなった。花の百名山でもあり、山頂の広大な湿原と山頂からの展望が楽しみな山である。



上越新幹線で越後湯沢駅 8:20 集合で、積雪期はスキーヤーで溢れるが、夏季の越後湯沢駅の朝は閑散としていた。



9:15、新幹線の改札から雄さん及び他のメンバーが現れた。

構内のコインロッカーに下山後の温泉入浴ツールや着替え等を入れて西口タクシー乗り場へ行く。

雄さんが、事前に手配してあったジャンボタクシー2台に分乗して、登山口の和田小屋に向かう。（9:20）



途中の第二駐車場には車が多数止めてあった、恐らく多くの登山者が既に入山していると思われる。その先の登山口 和田小屋（標高 1373m）に9時少し前に到着した。和田小屋の前はヤナギランが満開だった。

我々が和田小屋から苗場山頂に登るルートは祓川コースである。

一般の標準時間で約5時間である。



和田小屋の前で登山準備をする。



本日の灼熱の中での登り累積標高差が約 1000m になり、これに挑戦するため、入念なストレッチで体を解す。



登山準備が出来たところで、14名全員集合の記念写真を取りスタートする。

半澤さんは膝に故障を抱えており最悪の場合は途中で和田小屋の戻る覚悟だ。

出発点の和田小屋付近に咲く高山植物はヤナギランの他に・・



シシウド



最盛期を過ぎたニッコウキスゲ



花が散ったコバイケイソウ



かぐらスキー場のゲレンデに沿った登山道を登る。(9:14)



ゲレンデを5分ほど登ると、登山道は、ブナの原生林に入る。
前日、雨が降ったらしく登山道は濡れて、泥濘んでいるところもあり、滑りやすく、慎重に登る。



30分登ったところで、一回目の休憩を入れる。陽差しは受けないが蒸し暑く、水分補給は細目に必要だ。



和田小屋から約 40 分登ってヤット 6 合目に来た。ベンチがある「下の芝」まで後 30 分の予定だ。ブナ林からシラビソ、コメツガの混成樹林帯に変わってきた。



「下の芝」のベンチに向かって更に高度を上げる。



登り開始から約 80 分すると、周囲が開け、一面のキンコウカで黄色に染まっていた。



ヤット「下の芝」のベンチに到着し、2回目の休憩を取る。(10:40)



寝不足の川島さん、膝の故障を抱えた半澤さんは4~5分遅れ気味で雄さんがシッカリ、サポートしている。和田小屋から「下の芝」までに多くの高山植物にであった。



エンレイソウ



エンレイソウ



ギンリョウソウ



ゴゼンタチバナ



ワタスグ



キンコウカ



イワオトギリ



「下の芝」で10分休憩後、次のベンチ「中の芝」に向かう（10:50）。



「下の芝」から「7合目」、「7合目半」の標識を過ぎ、更に進む。



やがて苗場山頂への矢印が出始める登山道が木道に代わると、前方にベンチが見えてきた。（11:30）



11:30 に先頭 GP が「中の芝」に到着したが、半澤さん夫妻、川島さんは約 20 分遅れて到着した。
 川島さんの足が吊ってしまったようだ。
 全員揃ったところで予定通り、ここで昼食にする。

「下の芝」から「中の芝」の周辺に掛けて、以下の多彩な高山植物で彩られていた。



イワイチョウ



イワナシ



サンカヨウ



ミヤマコウズリナ ？



イワイチョウ



モミジカラマツ



オニアザミ



ヤマハハコ





「中の芝」で昼食休憩を 30 分取り、遅れてきた川島さん、半澤夫妻、雄さんを残し、他の 10 名は神楽ヶ峰に向かって更に進んだ。



「中の芝」から「上の芝」までは約 15 分で着き、休憩を取らずそのまま上を目指す。

前方の「神楽ヶ峰」はガスで覆われて見えない。



石に挟まれ「股スリ岩」と名付けられた急な下りを降りて「神楽ヶ峰」に向かう



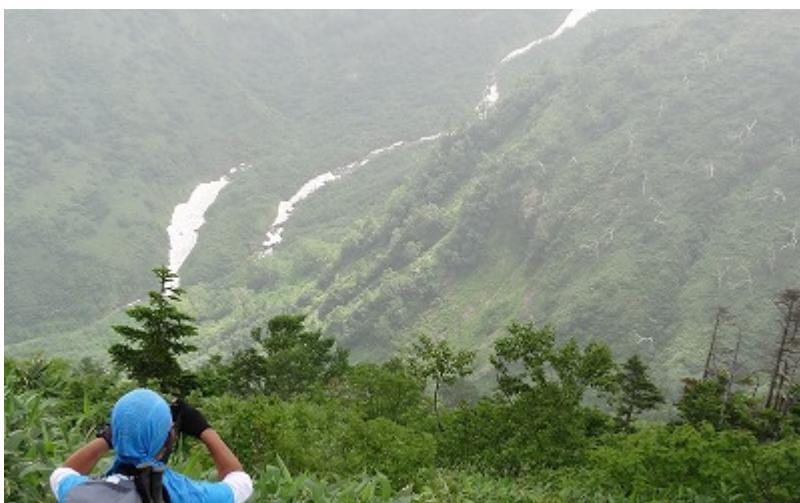
ニッコウキスゲの群生を超えると八合目の神楽ヶ峰(2030m)に着いたが狭く、更に先の場所で休憩を取る。



中の芝から約 50 分 (12:50) で「神楽ヶ峰」に到着し、ここで後続を待つ。20 分程待ち、大声で呼んでみたが、返事が聞こえてこない。心配ではあったが、先に進むことにした。



神楽ヶ峰から富士見坂を標高差 100m ほど下る。前方は苗場山頂であるが、山頂付近は霞んでいた。



下方を覗くと谷筋に雪渓が残っていた。さすが、豪雪地帯だ。



13:15 「雷清水」に着く。

このコース唯一の水場で、雪解けの水は冷たく実に旨く、生き返った。

正に「命の水」であり、空になったペットボトルを全て満たした。

ここでも 20 分程、後続の到着を待ったが現れなく、大声で叫んだがやはり返事は帰ってこなかった。

我々は先に進む。

「中の芝」から「神楽ヶ峰」から「雷清水」までに出会った高山植物は



ニッコウキスゲ



コイワカガミ



タテヤマウツボグサ



ホソバコゴメグサ



マイズルソウ



ヤマブキショウマ



キンコウカ



モミジカラマツ



オオカサモチ



「雷清水」から 10 分弱下ると鞍部に着き、そこは御花畠であった。(13:40)

トモエシオガマ、ツリガネニンジン、タカネナデシコ、クルマユリ、ミネウスユキソウ等、数えたらきりがないほど数十種類の高山植物で埋め尽くされていた。



後続の川島さん、半澤夫妻、雄さん達は、50 分近く遅れて御花畠を通過していた。

御花畠に咲いていた高山植物は



トモエシオガマ



ツリガネニンジン



クルマユリ



オニアザミ



白色ツリガネニンジン



トリカブト (ナンタイブシ)



ヤマハハコ



オヤマリンドウ



ハクサンフウロ



オニシオガマ



キオン



コバイケイソウ



ツルリンドウ



ヒメシジャン



ミヤマトウキ



タカネナデシコ



ヤマホタルブクロ



オタカラコウ



ナナカマドとマルバダケブキ



ミヤマアキノキリンソウ



メタカラコウ



ミネウスユキソウ



アワモリショウマ ?



オミナエシ



ムシカリ



シモツケソウ



ハクサンフウロ



タテヤマウツボグサ



ホソバコゴメグサ



紅葉したナナカマド



シラネアザミ　?

苗場山-2 (御花畠～山頂～自然交流センター泊～下山) ～続く